

//準備中です。

レポート課題その1について

テーマ

レポート1:「オリジナルなサーバ・クライアント通信プロトコルを設計する。」

含むべき内容

1. 通信プロトコルの名称
 - 目的や特徴が分かる簡単な名称を付けて下さい
2. 通信プロトコル設計の概要
 - 目的: どのような状況で、どのような通信を行うことを目的としているか
 - 特徴: どのような設計上の制限や工夫などがあるか
3. 通信プロトコルの設計仕様
 - 送信 / 受信データの仕様: 送信データとしてどのような文字種やデータ量がゆるされるか、送信データに対してどのような意味で、どのようなデータが返されるか、など
 - エラー時の応答など(もしあれば): 仕様と異なるデータ送信に対して、どのような処理と返信が行われるか、など
 - プロトコルの仕様は「積算プロトコル」などの既存のプロトコルを参考にしたり、送受信の文字列などを図や表などにまとめるなど、読む人にとって理解し易い工夫をしてください。

提出方法

- PDF形式の電子ファイルとして作成し、[manaba](#) コース ([応用プログラミング及び実習](#)) より提出して下さい。
- PDF形式のファイルの作成は一般のアプリケーションの他、全学認証を使つての[Google Document](#)などでも作成可能です。
- 提出ファイル名は「プロトコル名.pdf」例: 積算プロトコル.pdf、addup.pdf など) として下さい。
- レポートは12月20日12:30より提出可能です。
- 提出されたレポートが課題の趣旨に沿っていない場合は、再提出を要請する場合があります。その場合、再提出は [manaba](#) で指示します。

//mailto:sano+[[report@slab.math.ryukoku.ac.jp]sano+report@slab.math.ryukoku.ac.jp] 宛に電子メールで提出して下さい。 //-電子メールの件名[Subject]は、「apro report1」とします。 //-提出ファイル名は全て半角英数字で「apro1-学籍番号+氏名.pdf」例: apro1-t09000+SanoAkira.pdfとします。 //-提出するPDFファイルをワープロなどから直接作成することが難しい場合は、セルフラーニング室のスキャナを利用して冊子レポートからPDFファイルを作成し、電子メールにて提出して下さい。

- 提出された「レポート1」は、[manaba](#) 上で「レポート1」を提出した全ての受講者にそのまま開示されます。

提出 ✕ 切

- 2016年12月27日（火）23:59 まで

評価方法：以下のような観点から総合的に判断 10点

- レポートとしての体裁
 - 上記内容が含まれているか？
 - きちんとした日本語が書かれているか？
- プロトコルの内容
 - 通信プロトコルがきちんと与えられており、プログラムが設計可能な仕様として与えられているか？
 - 通信プロトコルに個性的な内容や工夫が見られるか？
 - その通信プロトコルはネットワーク上で実装される意義はあるか？
 - ネットワーク通信を使わないと実現できないことか？
 - ネットワーク通信を使うことで何か便利になっているか？

評価点

= 評価：**0～10点**

= 未提出による減点：**-10点**

= 減点法：

* 同じ内容だと見なされるレポートについては、同じレポートの人数を n として $1/n$ 倍した点数を満点として評価します。

* ただし、複数のレポートがたまたま類似のテーマを扱うこともあるでしょう。仮に同様の内容であったとしても、レポート内容や設計されたプロトコルから独自のものと判断できるケースでは、通常通り ($1/n$ しないで) 評価します。**したがって、独力で作成する限りはこの減点法を気にする必要はありません。**

* 再履修の学生が、**以前に提出した自分のレポート（とほぼ同様のもの）**を提出した場合には、この「同じだと見なされる」減点対象とはしません。ただし、大きな変更が無いままで提出されたものは、独自性などの部分で評価が大きく下がると考えて下さい。

レポート作成の注意事項

過去のレポート提出でよくあった間違いについて記しておきます。

= プロトコルの設計仕様とプログラムの設計仕様を取り違えている：

「プロトコルの設計仕様」では、どのようなクライアント送信に対してどのようなサーバ応答が行われるかという「通信の形式的ルール」を設計して記述します。クライアントからの送信、あるいはサーバからの返信をプログラムとしてどのように実現するか（プログラムの設計仕様）は、プロトコルの仕様には含んではいけません。通信の形式的ルールとは、たとえば講義で例示された「積算プロトコル」のようなものです。「積算プロトコル」には通信手順のみで、その実現方法は含まれていません。「プログラムの仕様」を書いてくる人がとても多いです。

= プロトコル設計の概要で、プロトコルの目的ではなくレポート作成の目的を書いている：

「目的：ネットワークプログラミングを理解するため」とか「目的：応用プログラミングの単位を取得

するため」みたいな例が散見されました。設計するプロトコルの役割や利用方法など、**プロトコルの目的**を書いて下さい。

= 過去に出されたレポートのコピーを提出する :

論外ですが、過年度の先輩や同級生のレポートを借用して提出する人がいました。このような場合、未提出扱い、あるいは大幅な減点を行ないますが、そもそもチェックが面倒なのでやめてくれ。

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/apro/2016/report1>



Last update: **2019/09/23 13:50**